

科目名	フレッシュヤーズセミナー2			ナンバリング	GEN721	授業形態	演習
対象学年	1	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	名取洋典	担当教員	五十嵐幸一、菊池真弓、金世煥、高島翠、高橋義考、名取洋典、松本麻子、和足憲明、ティモシー・クック				

授業の概要	専門科目の学修に必要な基本的なアカデミックスキルの獲得と豊かな人格の形成を目的とする。アクティブラーニング形式の個人ワークとグループワークによって主体的な学びを促し、適宜フィードバックを行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自律的な学習習慣・マナー・自己管理を身に付けることができる。 2. 専門科目を学ぶための基本的なアカデミックスキル(情報収集・分析、ロジカルシンキングなど)を身に付けることができる。 3. グループワーク等を通して、大学内に豊かな人間関係を形成することができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	時間外でのグループワークや幅広い情報収集が求められるため、主体的な態度で臨むことが望ましい。ポートフォリオを用いて振り返りを行うこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【いわき明星大学のディプロマポリシー】						
	○	1. 幅広い教養と専門分野についての十分な知識を身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 人々の多様な考えやニーズを理解し、他者と円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	3. 広い視野と判断力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態にも適切に対処することができる。					
	○	4. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域に貢献できる社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、退席はほとんどなく、居眠りや私語はほとんど見られない。発言や質問はそれほど多くない。 ・リフレクションは規定の文字数を超過しており、誤字が少ない。授業内容を踏まえた記述がされているが、やや表面的である。 ・グループワークでは、グループ内での発言や傾聴の姿勢は見られ、成果に向けて取り組んでいる。与えられた自分の役割を果たしている。 ・プレゼンテーションでは、話し方やアイコンタクトを意識しているが、主張にやや論理性が不足している。 ・アカデミックライティングでは、課題の条件が満たされている。背景、問い、目的の記述はされているが、やや曖昧である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、退席はなく、居眠りや私語をしていない。積極的に発言や質問をしている。 ・リフレクションは、規定の文字数を超過しており、誤字がない。授業意図を十分理解し、自分なりの考察を具体的に記述している。 ・グループワークでは、よりよい成果に向け、新たな視点を提示する、他のメンバーへ働きかけを行うなど、与えられた以上の役割を果たしている。 ・プレゼンテーションでは、聴き手を意識した話し方、アイコンタクトがされている。内容が整理されており、根拠のある主張ができています。 ・アカデミックライティングでは、課題の条件が満たされ、主張に根拠があり論理的な説明ができています。

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業内課題	○	○	○	○	○		20%
授業外個人課題	○	○	○	○	○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		30%
グループワーク	○	○	○	○	○		20%
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	課題については、提出物へコメント記入後返却、またはmanab@IMUを使用するなど、個別にフィードバックを行う。グループワークについては、授業中に各グループごとにフィードバックを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	後期オリエンテーション アカデミックスキル I -12	経営側と利用者側の視点に立ち、学食メニューを企画し、提案を行う。	
	第2回	アカデミックスキル I -13	経営側と利用者側の視点に立ち、魅力的な学食メニューを企画し、提案を行う。	
	第3回	アカデミックスキル I -14	経営側と利用者側の視点に立ち、魅力的な学食メニューを企画し、提案を行う。	
	第4回	アカデミックスキル I -15	経営側と利用者側の視点に立ち、魅力的な学食メニューを企画し、提案を行う。	
	第5回	アカデミックスキル II -1	論理的に思考するツールとして、ロジックツリーやマトリックス図の使い方を学ぶ。	
	第6回	アカデミックスキル II -2	論理的に思考するツールとして、ロジックツリーやマトリックス図の使い方を学ぶ。	
	第7回	アカデミックスキル II -3	地域課題の解決案を、ロジックツリーを用いて考え、提案する。	
	第8回	アカデミックスキル II -4	身近な課題の解決案を、ロジックツリーを用いて考え、提案する。	
	第9回	アカデミックスキル II -5	身近な課題の解決案を、ロジックツリーを用いて考え、提案する。	
	第10回	アカデミックスキル II -6	身近な課題の解決案を、ロジックツリーを用いて考え、提案する。	
	第11回	アカデミックスキル II -7	身近な課題の解決案を、ロジックツリーを用いて考え、提案する。	
	第12回	アカデミックスキル II -8	身近な課題の解決に向けた提案内容をプレゼンテーションし、不足点や改善点のフィードバックを受ける。	
	第13回	アカデミックスキル II -9	第12回で受けたフィードバック内容を検討し、再度修正版のプレゼンテーションを行う。	
	第14回	アカデミックスキル II -10	第12回で受けたフィードバック内容を検討し、再度修正版のプレゼンテーションを行う。	
	第15回	いわき市を知る・1	いわき地区の歴史・文化に関する理解を深め、これからの地域の発展を考える。	
	試験	試験は実施しない。		

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	いわき市を知る・2	いわき地区の歴史・文化に関する理解を深め、これからの地域の発展を考える。	
	第17回	いわき市を知る・3	いわき地区の歴史・文化に関する理解を深め、これからの地域の発展を考える。	
	第18回	いわき市を知る・4	いわき地区の歴史・文化に関する理解を深め、これからの地域の発展を考える。	
	第19回	メジャー体験講座	各メジャーの体験授業を受け、2年次以降のメジャー選択における判断材料にする。	
	第20回	メジャー体験講座	各メジャーの体験授業を受け、2年次以降のメジャー選択における判断材料にする。	
	第21回	メジャー体験講座	各メジャーの体験授業を受け、2年次以降のメジャー選択における判断材料にする。	
	第22回	サブメジャー体験講座	各サブメジャーの体験授業を受け、2年次以降のサブメジャー選択における判断材料にする。	
	第23回	サブメジャー体験講座	各サブメジャーの体験授業を受け、2年次以降のサブメジャー選択における判断材料にする。	
	第24回	サブメジャー体験講座	各サブメジャーの体験授業を受け、2年次以降のサブメジャー選択における判断材料にする。	
	第25回	サブメジャー体験講座	各サブメジャーの体験授業を受け、2年次以降のサブメジャー選択における判断材料にする。	
	第26回	サブメジャー体験講座	各サブメジャーの体験授業を受け、2年次以降のサブメジャー選択における判断材料にする。	
	第27回	キャリアデザイン・1	今の社会状況と自分のキャリアとの関連性について考える。	
	第28回	キャリアデザイン・2	今の社会状況と自分のキャリアとの関連性について考える。	
	第29回	後期の振り返り・1	後期学生生活の振り返りを行い、セルフグロースシートを使用して2年次に向けた目標設定を行う。	
	第30回	後期の振り返り・2	後期学生生活の振り返りを行い、セルフグロースシートを使用して2年次に向けた目標設定を行う。	
		試験	試験は実施しない。	
授業の進め方	講義は2コマ連続(3時間)で行い、全30コマの講義を15回にわけて実施する。 授業はクラスごとに分かれて行い、各クラスの担当教員が実施する。主にアクティブラーニング形式のグループワークによって進める。			
授業外学習の指示	授業で学んだ内容を整理し、まとめておく。 課題(個人、グループ)に関する情報収集を行う。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	必要に応じて資料の配付を行う。
参考書	特になし
参考URLなど	特になし
その他	授業ではタブレットを使用するため、毎回持参すること。 配付資料・ワークシート収集用ファイル(ポートフォリオ)も毎回持参すること。 資料の配付、課題の提出、連絡事項等に、manab@IMUを使用する場合がある。